

静岡赤十字病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

承認番号 研究課題名	NO 2020-45 静岡県内における小児の細菌性髄膜炎サーベイランス
当院の実施責任者研究 及び職名	小児科 副部長 大河原一郎
他の研究機関および 各施設の研究責任者	研究代表者 氏名：田中敏博 所属及び役職：静岡厚生病院 小児科部長 分担研究者 氏名：松林正 所属及び役職：聖隷浜松病院 小児科部長
研究期間（西暦）	承認日から 2021 年 12 月 31 日まで
研究の目的	<p>2008 年 12 月に Hib ワクチンが、2010 年 2 月に小児用肺炎球菌ワクチンが、それぞれ本邦に導入され、さらには 2011 年 2 月より公費助成制度の実施、そして本年 4 月より定期接種化されたことによって、対象年齢の小児における接種が普及してきている。これにともない、Hib および肺炎球菌を原因とする感染症の発生数の減少は、日常診療における印象としても明らかである。髄膜炎にいたっては、その発生をみること自体がまれな状況となってきたことは、各種報告されている。しかしながら、近隣地域として、具体的なデータは存在していない。</p> <p>昨年、日本小児科学会静岡地方会で、浜松地区の病院小児科のグループより、ここ数年の細菌性髄膜炎の発生数を調査した研究結果が発表された。ワクチン導入以降の髄膜炎の発生が抑制されていることがやはり示されていた。</p> <p>このような研究を、静岡県全体として実施できれば、地域としてより意味のあるデータになるものと考えられた。第一には、細菌性髄膜炎という、後遺症をのこしたり死亡にいたることもある重症感染症の発生動向を把握できること、第二に、Hib および肺炎球菌ワクチンの効果を疫学的に評価する手がかりとなること、第</p>

	<p>三に、地域のそのようなデータ/情報を手にすることで、日常診療の中で大いに活用していくことが可能になること、等である。</p>
研究の内容	<p>本研究は、静岡小児感染症サーベイランス研究会の活動の一環として、厚生労働科学研究費補助金、新型インフルエンザ等新興再興感染症研究事業、「自然災害時を含めた感染症サーベイランスの強化・向上に関する研究（研究代表者：谷口清州/松井珠乃、研究分担者：中野貴司）」より補助を受けて実施される、多施設共同研究である。今後の予防接種の普及により、Hib および肺炎球菌を原因とする細菌性髄膜炎の新たな発症が著しく抑制されることが予測される。ただし、Hib および肺炎球菌以外の病原体による細菌性髄膜炎は、一定数の発症が引き続き認められるものと考えられる。</p> <p>本研究におけるデータが、一般市民のみならず医療関係者における当該予防接種の必要性の認識の向上につながって、それが予防接種率の向上につながっていくこともまた期待される。</p>
個人情報の取扱い	<p>症例登録にあたり、患者に関連した情報は連結不可能匿名化がなされた状態であり、倫理的な問題はない。</p>
問い合わせ先 (拒否等受付窓口)	<p>【研究担当者】 所属：静岡赤十字病院 小児科 氏名：大河原一郎 住所：静岡県静岡市葵区追手町 8-2 電話：054-254-4311</p>